

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大学名	明治大学
整理番号	B18
構想名	世界へ！MEIJI8000 －学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成－

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価）  <b>A</b>	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント）	
<p>事業期間全体において、「主体的に学び、考え、行動し、多様な価値観の中で、新たな未来を切り拓くグローバル人材を世界に送り出す」ことを大目標として、「①総合的教育改革」をベースに、「②主体的学びを確立する3つの仕組み」と「③主体的学びを育むグローバル・キャンパス」を柱として取組みが行われたものとなっている。</p> <p>具体的には、学事暦を改革することで、アクティブ・タームを創出し、短期留学交流やインターンシップ等の海外経験促進等を通じて活用が図られたことにより、学生の「語学・コミュニケーション力」と「異文化理解力」の強化が進められたことや、「大学の国際化促進フォーラム」の幹事校として、明治大学アセアンセンターを活用した取組みにより、他大学への横展開にも貢献した。コロナ禍においても、COIL教育を通じた交流を促進し、海外留学経験者の数が倍増するなど、キャンパスの国際化が進展した。さらには、大規模大学のメリットを生かして、事業終了後に多額の自己資金を組み込み自走化させたうえで、「明治大学グランドデザイン2030」の中で、国際化推進事業の一部としたことは評価できる。また、「明治大学学生海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」により、優秀な学生を海外のトップクラス大学に留学させることを促進し、多くの学生派遣を行った。</p> <p>一方で、これらの意欲的な試みは、必ずしも目標とする幅広い留学に繋がっていないことは残念である。対象を限定し重点支援したことは理解できるが、全学の理解が得られたのか疑問が残る。教育インフラの整備は進んだものの、単位取得を伴う協定校への留学交流などは未達となっており、アクティブ・タームの導入などの試みも全学的なものとはなっていない。独自目標も含め多くの項目において未達となり、満足できるものとは言えないため、カリキュラムとの連動性や、学内広報活動含め、当初計画からその後の実施段階の分析を行い、今後の国際化の進め方を再度議論していただきたい。その際、意欲的な目標に対し各種対話を通して、より効果の出る形に進化するように、新たな戦略を作り出し、貴学の組織文化を変化させる一助になることを期待したい。</p> <p>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。</p>	